

ご案内

平成26年度水産工学関係研究開発推進会議
漁業生産技術部会・水産業システム研究部会—合同部会
テーマ：漁船活用型の水産音響調査を目指して

水産工学研究所は、標記合同部会を、以下の開催要領に沿って開催いたします。参加希望者は、別紙参加申込書にてお申し込み下さい。参加は無料です。申し込み締め切りは2014年10月31日です。なお、締め切り前でも参加希望者人数が定員に到達次第締め切らせて頂きます。

～開催要領～

【開催日時】 平成26年11月11日（火） 13:00-17:50

【開催日時】 農林水産省共催組合 南青山会館 大会議室
〒107-0062 東京都港区南青山5-7-10 TEL03-3406-1365

【開催趣旨】

我が国の漁業は、主要水産資源の水準低下、魚価の低迷、生産コストの増大、担い手の不足など多くの課題を抱えている。このような中、水産日本の復活に向けて、本年3月に水産庁において「資源管理のあり方検討会」が設置され、議論が進められてきた。検討会では、現在の資源評価体制について一定の評価が示される一方で、更なる精度向上の必要性も指摘されている。しかしながら、近年、予算の制約などから調査船調査による従来からの観測点での調査を維持することが難しくなりつつある。漁船は、これまで生産手段として用いられていたが、ソナーや魚群探知機などの音響探査機器類を搭載していることから、潜在的に漁場やその付近をモニタリングできる能力を有している。調査船調査を補完し、漁船が生産活動をしながらか資源調査へ活用できることを示唆する。また、今後の資源管理の精度を向上させるためには、水産資源の動態に深く係わる海洋物理環境や海底地形などの関連情報も益々重要になる。こうした情報も調査船調査のみでは把握が不十分であり、漁船の活用が期待される。

本合同部会では、漁船に搭載されている“音響探査機器”に着目し、はじめに水産音響の基本を説明し、技術的側面として音響から見た漁船と調査船との違い、漁業用と調査用音響機器の違い、漁船を活用した新しい資源情報のモニタリング収集事例について検討し、調査船としての新たな可能性について議論する。

【議事】

13:00 開会挨拶 水産工学研究所 所長 渡部俊広
13:05 水産工学研究所漁業生産工学部・水産業システム研究センターの紹介
水工研 水産業システム研究センター長 上野康弘

- 13:15 平成26年度水産工学関係研究開発推進会議合同部会開催趣旨説明
水工研 漁業生産工学部長 東 照雄
- 13:20 水産資源管理と音響調査の重要性
水産庁 増殖推進部 研究指導課 研究管理官 森 賢
- 13:35 水産音響のイロハと音響から見た漁船と調査船
東京海洋大学 名誉教授 古澤昌彦
- 14:25 国際漁場における資源管理を目的とした事例
水工研 漁業生産工学部 水産情報工学グループ 安部幸樹・
水工研 漁業生産工学部 漁具・漁法グループ長 越智洋介
- 14:40 開発調査事業における音響機器の活用事例
開発調査センター 浮魚類開発調査グループ 大島達樹・
伏島一平
- 14:55 漁船を利用した高密度な海況データの収集
福井県水産試験場 海洋研究部漁場環境グループ 鮎川航太・
石川県水産総合センター 海洋資源部長 大慶則之 ほか
- 15:10 小型漁船を活用した総合的土砂管理のための河床・浅海域地形モニタリング
豊橋技術科学大学 建築・都市システム学系 岡辺拓巳
- 15:25 シラス漁船によるデータ収集とその利活用
静岡県水産技術研究所 資源海洋科 小林憲一
- 15:50 漁船を使用した資源量計測における誤差軽減のための取り組み ～定量性確保のための
検討点～ 水工研 漁業生産工学部 水産情報工学グループ 今泉智人・
松裏知彦
- 16:05 完全自動魚群探知データ収集システムの構築
水工研 水産業システム研究センター エネルギー・生物機能利用技
術グループ長 赤松友成・漁業生産工学部 水産情報工学グループ
今泉智人
- 16:20 漁業調査船における水中放射雑音の低減対策
水工研 漁業生産工学部 主幹研究員 川田 忠宏
- 16:45 総合討論
- 17:45 閉会挨拶 水工研 業務推進部長 寺脇利信

問い合わせ先： 水産工学研究所漁業生産工学部 東 照雄（あずまてるお）

[TEL:0479-44-5941](tel:0479-44-5941)